

橘小学校 「学力向上実行プラン」

- 基礎・基本の徹底を図り、自らめあてを設定し、進んで学ぶ授業の実践
- 深い学びをめざす、互いに伝え合い、考えて、つなげる授業の実践

学力向上推進員 宇野 佐和子	委員 校長 上原 小代子 教頭 佐々木啓介 教務主任 山田 孝 研修主任 宇野 佐和子
-------------------	---

校長
上原 小代子

【各校の取組状況の把握について】

授業研究会や研修会の実施、教師自身の振り返りアンケート等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○基礎的・基本的な知識・技能がおおむね身に付いており、与えられた課題にまじめに取り組むことができる児童が多い。</p> <p>●語彙力が十分でなく、初読や文章を読み取る力、要点をまとめて書く力に課題がある。</p>	<p>・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けている。</p> <p>・身に付けた知識や技能を、他の学習や生活の場面において活用することができる。</p> <p>・語彙力を高め、日常生活で自分の考えや思いを分かりやすく話したり書いたりできる。</p>	<p>・宿題の出し方の工夫、小テストやプリント、タブレットのドリル活用で、基礎的・基本的な事項の習熟を図る。</p> <p>・既習事項を用いて課題を解決する場面を増やす。</p> <p>・音読や暗唱、朝活での視写や読書、新聞を読む活動(あわスタの活用)を継続し、語彙を増やしたり文章の書き方を身に付けたりさせる。</p>	<p>・新聞記事や学習ガイドを活用し、初見の文章を読むことに慣れさせる。</p>	<p>・どの学年も、小テストや宿題の出し方を工夫することができた。継続的な取り組みにより、基礎的・基本的な事項の習熟を図ることができた。</p> <p>・朝の活動で全校的に視写や読書に取り組んだ。くり返し行い、文章力、読解力の向上につながった。視写では丁寧に速く書く力がついてきた。</p> <p>・新聞や学習の感想文、「あわスタ」を通して、まとめる力や語彙力が向上した。</p>	<p>・視写活動を充実させ、繰り返し語彙力の向上を図るとともに、活用する学習場面を増やす。</p> <p>・朝やドリルタイムの活用について共通理解を図ったり、内容を見直したりしながら組織的に取り組む。</p>

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○みんなの前で調べたことを伝えたり、話し合ったりする活動に意欲をもち始めた児童が増え、ペアやグループの話合いでは、自分の考えを発言できるようになってきた。</p> <p>●自分の考えを分かりやすく表現したり、友達の考えを受けて自分の考えを言ったりすることが苦手である。</p>	<p>・話し手の意図をとらえながら聴くことができる。</p> <p>・様々な場面で、自分の考えを書いたり話したりして表現することができる。</p> <p>・他者と意見を交流しながら、自分や全体の考えを深めたり広げたりできる。</p>	<p>・ペアトークやグループ学習を効果的に取り入れ、互いの考えを聴き合い、交流・共有できるような場面、時間を確保する。朝会の音読発表で異学年の意見交流の場を確保する。</p> <p>・ホワイトボードやICTを活用した発表や話合い活動を積極的に取り入れる。</p> <p>・友達の考えを受けて自分の考えを表現したり、考えた理由を表現したりできるような発問や指示の精選をし、児童の考えが深まるようにする。</p>	<p>・グループで課題を設定して話し合ったり、見出したことをほかの人に分かるように伝え合ったりする場面を増やす。理由や考え方を図などを示しながら説明する活動を取り入れる。</p> <p>・文章を要約する学習をする。</p>	<p>・ホワイトボードを使った話合いやタブレットを活用したプレゼンなどで、相手意識をもった伝え方などの表現力が向上した。</p> <p>・ペア学習や発問の工夫で話合いの活性化を図った。深まりには課題もあるが、向上しつつある。</p> <p>・少人数を生かし個別の支援を充実させることができた。</p>	<p>・児童にとって分かりやすい話合いのモデルを提示する。聴く力を向上させ、相手の意図をくみ取りながら話を聴けるようにする。</p> <p>・学年間の交流を図り、発表する場を増やす。</p> <p>・タブレット活用のモデル授業を参考に研修を組織化する。</p>

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○与えられた課題に対しては素直に取り組むことができる児童が多い。</p> <p>●学習に対する取り組みが受動的で、自分のめあてを見つけたり自己決定したりすることに課題がある。家庭学習に関しては、二極化が進んでいる。</p>	<p>・課題解決を通して分かる楽しさやできる楽しさを体感し、自分なりの充実感や達成感を味わっている。</p> <p>・自分の目標をもって家庭学習や家庭読書に取り組むことができる。</p>	<p>・児童が一時間の見通しがもてるようなめあての設定や振り返りの記述、振り返りの共有を学年に応じて工夫することで、達成感を味わわせ、さらに進んで学ぼうとする意欲を高める。</p> <p>・家庭学習の手引きや自主勉強ノートのおすすめメニューの配付、ノートの常設展示をし、児童が自己の課題に応じて主体的に学習に取り組めるようなヒントを提示する。</p> <p>・図書館サポーターと連携し、学校図書、学級文庫の内容の充実をしながら、利用の活性化を図る。週末読書を全校的に行い、家庭でも読書に触れる機会を作る。</p>	<p>・自主勉強の取組ませ方と評価を工夫する。</p>	<p>・学習のめあてづくりや解決の方策を考える力がついてきて、見直しをもって学習できるようになった学年も出てきた。</p> <p>・自主学習への取組(量や内容)には個人差が大きかった。</p> <p>・自主学習の内容は、計算や漢字中心であるが、1年間継続して続けることができた。</p> <p>・学校の読書の時間には集中して読書できるが、家庭読書は十分に定着しなかった。</p>	<p>・毎時間のめあての明確化と学習の流れの提示は、次年度も続ける。振り返りの時間を確保し、児童の充実感や達成感につなげるように学校全体として組織的に取り組む。</p> <p>・自主学習のモデルを示す等の手立てを工夫し、主体的な学習の習慣化と内容の充実を図る。</p> <p>・週末読書の継承と、学習に関する図書の紹介で、読書を推進していく。・自主勉強の取組ませ方と評価を工夫する。</p>

令和6年度 学力向上ロードマップ

